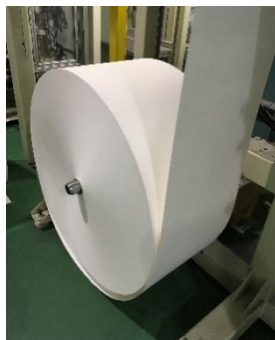


紙おむつ等吸収体製品に使用するフラッフパルプ生産開始について

大王製紙株式会社(住所：東京都千代田区)は、本日(8月7日)開催の当社取締役会において、紙おむつ等吸収体製品に使用するフラッフパルプの生産を開始することを決議しましたのでお知らせします。当社は、衛生用紙と紙おむつ等の吸収体製品を品揃えしているメーカーとしての優位性を生かして、市場及び顧客のニーズに柔軟に対応することで吸収体製品の安定供給体制を一層強化して参ります。

設置場所は当社三島工場(住所：愛媛県四国中央市)で、洋紙の生産設備を改造し、紙おむつ等吸収体製品の主要材料の一つであるフラッフパルプ(※)の加工原反となるロールパルプ生産設備とします。

※フラッフパルプ：ロールパルプから解繊した綿状パルプであり、高分子吸収材と混合して紙おむつや生理用ナプキン等の吸収体製品に使用する。針葉樹を原料とする漂白クラフトパルプで輸入品が大半を占める。

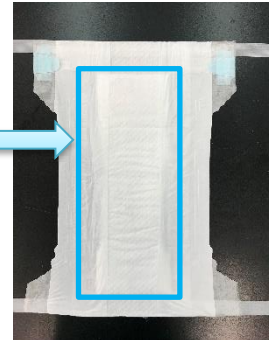


ロールパルプ



フラッフパルプ(解繊後)

高分子吸収材と
混合使用



紙おむつ

今回の改造により、需要減少の続く洋紙からの転換に加えて、100%輸入しているフラッフパルプの一部を内製化することで、吸収体製品の安定供給体制を一層強化します。

当社は、現在取り組んでいる第3次中期事業計画において、「紙・板紙事業とホーム&パーソナルケア事業(以下、H&PC事業)を横断した抜本的な構造改革」を戦略テーマに掲げ、三島工場の競争力のあるパルプを、国内外で需要が伸長している段ボール原紙やクラフト紙、衛生用紙へと活用していくことを推進しております。

これらの設備改造により、構造改革をさらに加速させるとともに、需要が拡大し多様化する国内外の市場ニーズに対応できる体制とします。

当社は、H&PC 事業の主力商品として、おむつ(ベビー用・大人用)、ナプキン、失禁ライナー等の吸収体製品を成長分野の一つとして位置付けており、今回の内製化により日本だけでなく中国、東南アジアの生産工場においても、フラッフパルプのサプライチェーンの強靱化を図ります。加えて、吸収体製品の品質および収益性を更に向上させてまいります。

なお、需要減少が進む洋紙については、今後も販売に見合った生産体制とし、お客様への安定供給体制を維持していくことに万全を期してまいります。

《本設備改造計画の概要》

- 1) 対象設備 : 三島工場 15号抄紙機(洋紙 生産能力: 月産5,000トン)
- 2) 対象品種 : 印刷・情報用紙からフラッフパルプへの変更
- 3) 生産能力 : フラッフパルプ生産能力 月産7,500トン
- 4) 設備投資額: 約60億円
- 5) 改造期間 : 2022年4月停機、2022年9月再稼動(5ヶ月間設備停止)

以上

【本リリースに関するお問い合わせ先】

大王製紙株式会社 経営企画部 品川・水澤

TEL: 03-6856-7509